

生態工学会

2010 年度第 3 回 理事会資料

2011 年 2 月 18 日 (金)

東京文化会館

## 2010 年度生態工学会 第 3 回理事会

### 【総務委員会】

#### 総務委員会 活動報告

##### (1) 会員数・賛助会員数

会員数：2011 年 1 月 31 日現在（カッコ内は 2010 年 4 月 1 日からの増減）

正会員 345 名（4 名増）

学生会員 38 名（6 名増）

合計 383 名（10 名増）

賛助会員数：13 団体 19 口（1 団体増）

耐圧硝子工業株式会社(1 口)、清水建設株式会社(1 口)、ダイキン工業株式会社(2 口)、株式会社フジタ(1 口)、三菱重工業株式会社(1 口)、日揮株式会社 (3 口)、ホテル産業研究所(1 口)、財団法人環境科学技術研究所 (1 口)、株式会社サイエンテック(2 口)、ヤンマー株式会社(2 口)、富士ゼロックスクロスワークス株式会社(1 口)、宇宙システム開発株式会社 (1 口)、岩崎電気株式会社(1 口)、株式会社信州サラダガーデン入会 (1 口)

##### 《 備考 》

平成 22 年度より入会 (株) 信州サラダガーデン

平成 23 年度より退会 (財) 環境科学技術研究所

平成 23 年度より口数の変更 日揮 (株) より 3 口から 1 口に

会費納入状況：165 人 / 210 人（約 79%）

## 【編集委員会】

### 2010年度編集委員会活動報告(2月期)

#### 1. 生態工学会誌の発刊

生態工学会誌「生態工学」22巻2号～23巻1号(2010年4月、7月、10月、2011年1月発刊)を発行した(内容:原著論文11、短報2、特集4、報告3、特別・記念寄稿1、お知らせ、投稿規程、総ページ194)。なお、2011年1月19日時点での査読中の論文は1報である。また、22巻4号までをJ-STAGE上の電子ジャーナルとして公開した。

種類	第22巻			第23巻
	2	3	4	1
特別寄稿				
特集論文			4	
原著論文	4	2	2	3
短報			1	1
総合論文				
解説・資料				
受賞記念寄稿		1		
ニュース・企画・報告	1	1	1	

#### 2. 学会誌財務状況

第21巻3号から第22巻2号までの学会誌発行収支は下表のとおり。収支はかなり改善されている。

Vol.21 No.3 ~ Vol.22 No.2 の実績									
	投稿論文数 (頁)	無料論文数 (頁)	頁	編集印刷費	頁単価	掲載料	別刷代	収入合計	収支
合計	14 (94)	5 (20)	184	¥1,255,170	¥6,822	¥600,000	¥600,000	¥1,200,000	¥-55,170
平均	3.5	1.3	46	¥313,793	¥6,822	¥150,000	¥150,000	¥300,000	¥-13,793

#### 3. 学会誌財務状況の健全化に向けて【要審議事項】

採算改善のために以下の措置を行ないたい。

##### (1) 投稿料が無料の論文・記事の頁数を制限

- 学会誌の独立採算制を高めるため、現在投稿料が無料となっている論文や記事の頁数をそれぞれ原則4頁までに制限する。

##### (2) 投稿規定の掲載中止

- 投稿規定の掲載をやめ、1頁の投稿案内とし、ホームページを参照させるものとする。

##### (3) 「査読候補者リスト」の提出

- 査読者選定時間短縮のため、論文表紙に添えて査読候補者リストの提出を可能にする。
- リストにある候補者はあくまで参考として、質の低下を防ぐものとする。

##### (4) 「技術論文」カテゴリーの導入

- 現場の問題を創意工夫して解決を図った例、いわゆるオリジナリティというよりは、実用性の面から、既存の方法や理論を応用することにより問題解決を図った試みなどを扱うカテゴリーとして、新たに「技術論文」という枠組みを設ける。
- 既存の枠組みで対応可能との意見もあり。

##### (5) 別刷購入の任意化について

- 別刷の購入は任意とする。

#### 4. 投稿規定の改訂【要審議事項】

従来投稿料としてきたものを掲載料とし、投稿料は無料とする。

[投稿規定 2-2]

(原文) 「依頼原稿を除く投稿原稿については投稿料 30,000 円を申し受ける。」

(改訂案)「投稿料は無料とし、依頼原稿を除く投稿原稿については、受理後、掲載料として 30,000 円を申し受ける」

## 5. 学会賞候補者の推薦について

論文賞、奨励賞候補者の推薦を行った。

以上

### 【表彰委員会】

2011 年度生態工学会学会賞受賞候補者の選考結果について

#### 1. 受賞候補者の募集

- 募集期間：2010 年 4 月 1 日～10 月 30 日（学会誌，学会ホームページ）
- 募集結果：推薦 9 名（学術賞 2 名，功労賞 2 名，論文賞 4 名，奨励賞 1 名）

#### 2. 表彰委員による選考

- 選考期間：2011 年 1 月 4 日～2011 年 2 月 15 日
- 選考結果：下記のように決定した。

賞種類	氏名	対象件名
生態工学会賞 学術賞	増田篤稔・村上克介	微細藻類の高密度・大量生産技術の開発および実証に関する研究
生態工学会賞 功労賞	寺添 斉	生態工学会の運営および生態工学分野の普及に関する貢献
生態工学会賞 功労賞	富田-横谷香織	生態工学会および年次大会の運営に関する貢献
論文賞	武田美恵	都市緑地土壌の生物多様性評価に関する研究
論文賞	新井真由美	「ミニ地球」研究の展望と有人火星滞在のための閉鎖型宇宙施設の気象改良
論文賞	三原真智人	土壌および肥料成分の流出抑制を目指したヤシ殻濾過帯による保全対策
論文賞	大宅雄一郎	ステレオ画像を用いた魚運動の自動解析手法の開発
奨励賞	石村彰大	Water deficit index (WDI)を用いた丹沢山地におけるブナ群落の衰退状況の評価

以上

## 2011 年度生態工学会特別功績賞候補者推薦について

2011 年度生態工学会特別功績賞につきまして、下記 1 名の会長推薦がありました。表彰規定 第 12 条に基づきまして、理事会での承認をお願いいたします。

### 記

#### 1. 受賞候補者一覧

賞種類	氏名	対象件名
特別功績賞	西崎進治	CELSS プロジェクトと学会運営への功績

以上

### 【広報委員会】

#### 2010 年度活動計画

- ・ SEE Quick 配信（メール配信）の運営  
SEE Quick 配信依頼に対する取り扱い方法の運用を通して、速やかな配信業務が成し遂げられ 2/14 までに 436 回情報提供を行った。一方、情報配信を希望しない会員に対してはその旨迅速に対応した。今後も円滑な SEE Quick の配信業務を行うとともに、問題点などを検証し改善に努める。
- ・ HP の内容の更新  
トップページの情報を整理し、迅速な情報伝達に努めた。
- ・ リーフレットの作成・配布  
HP にリーフレットを公開し、希望者に無料で印刷版を郵送する旨情報掲載した。

2011年2月18日  
企画委員会

## 企画委員会 2010年度活動中間報告

2011年2月18日現在までに下記の企画を実施した。

(1) 2010年度生態工学会年次大会（主催）

日 時：2010年5月14（金），15日（土）

会 場：沖縄県農業研究センター（糸満市）

共 催：沖縄農業研究会

参加人数：94名（学会員・研究会会員86名、一般8名）

特記事項：一般セッション口頭発表 16課題、ポスターセッション19課題

一般公開特別講演「沖縄の一次産業と環境、資源エネルギー循環」、招待OS「沖縄における水産増養殖の現状と今後」、「農地生態、環境、生体情報モニタリング技術の応用と展望」を実施した。

(2) 日本地球惑星科学連合2010年大会（合同開催）

日 時：2010年5月23日（日）～28日（金）

会 場：幕張メッセ（千葉県千葉市）

主 催：日本地球惑星科学連合

特記事項：今年度はセッションを企画しなかった。

(3) 生態工学定例シンポジウム（主催）

日 時：2010年11月5日（金）10：00～17：00 情報交換会 17：00～19：00

会 場：東京大学 弥生講堂一条ホール

参加人数：39名（会員29名、一般6名、学生4名）、情報交換会 30名

テーマ：「日本の未来を担う技術開発－食糧生産、宇宙開発、環境・エネルギー」

プログラム（敬称略）

① 農業用ロボットの現状と課題 牧野 英二（生研センター）

② 循環式養殖システム－泡沫分離法の効用と利用法－

丸山 俊朗（宮崎大名誉教授）

③ 世界と日本の宇宙開発動向：有人宇宙開発の行方 木部 勢至朗（JAXA）

④ 微小重力環境とISSを用いた流体物理実験 大西 充（JAXA）

⑤ 水処理膜の市場動向と最先端技術 峯岸 進一（東レ株式会社）

⑥ 自然冷媒CO<sub>2</sub>ヒートポンプ給湯機（エコキュート）開発物語と将来展望

橋本克巳（電力中央研究所）

(4) 第54回宇宙科学技術連合講演会（共催）

日 時：2010年11月17日（水）～19日（金）

会 場：静岡グランシップ（静岡県静岡市）

主 催：日本航空宇宙学会

特記事項：オーガナイズドセッション「宇宙で生きる！～人間生存環境拡大の試み～」を企画し、18日（木）に17件の講演を実施した。（参加人数37名）

(5) 定例研究会

定例理事会終了後に、下記のように実施した。

第1回

テーマ「原料転換によるグリーン・サステイナブルケミストリー」

日 時：2010年4月23日（金）

会 場：駿河台記念館

講 師：富永 健一先生（産業技術総合研究所）

第2回

テーマ「人間の生物学～適応変化する自分自身のシステムを知る」

日 時：2010年10月18日（月）

会 場：東京文化会館

講 師：跡見 順子先生（東京大学）

第3回

テーマ「食の安全・安心・高付加価値化と品質評価技術

—日本酒造りと施設野菜栽培を題材に—

日 時：2011年2月18日（金）

会 場：東京文化会館

講 師：齋藤 高弘先生（宇都宮大学）

以上

2011年2月18日  
企画委員会

企画委員会 2011年度活動（案）

2011年度は以下の企画を予定している。

- (1) 2011年度生態工学会年次大会（主催）  
日 時：2011年6月15（水），16日（木）  
会 場：宇宙航空研究開発機構 調布航空宇宙センター（調布市）
- (2) 日本地球惑星科学連合2011年大会（合同開催）  
日 時：2010年5月22日（日）～27日（金）  
会 場：幕張メッセ（千葉市）  
主 催：日本地球惑星科学連合
- (3) 第55回宇宙科学技術連合講演会（共催）  
日 時：2011年11月30日（水）～12月2日（金）  
会 場：愛媛県県民文化会館（松山市）  
主 催：日本航空宇宙学会
- (4) 生態工学定例シンポジウム（主催）  
日 時：2011年10月20日（木）または 11月24日（木）  
会 場：東京大学 弥生講堂一条ホール
- (5) 定例研究会  
理事会後に実施する予定

以上



## 研究部会報告

竹内俊郎・菊池弘太郎・遠藤雅人

### 生態工学会ミニシンポジウム・東京海洋大学大学院合同セミナー 「閉鎖循環式養殖システムにおける最近の動向と課題」

主 催：東京海洋大学大学院海洋科学技術研究科  
生態工学会 循環式水棲生物飼育研究部会（共同主催）  
後 援：日本水産学会  
日 時：2011年2月4日（金） 13：30－17：45  
場 所：東京海洋大学 品川キャンパス 白鷹館 2階 多目的スペース1  
（〒108-8477 東京都港区港南4-5-7）

参加人数：約70名 内訳 一般参加者： 45名  
学内参加者： 25名

特記事項：一般参加者が2/3を占めた。大変盛会であり、会場は満員となった。総合  
討論では泡沫分離装置における原理と機能について活発な議論が行われ、  
予定時間を大幅に超過しての終了となった。

